

BX

文化シヤッター

BX GROUP SUSTAINABILITY REPORT



2022

BXグループ
サステナビリティレポート

会社概要

| | |
|--------|---------------------------------------|
| 商号 | 文化シャッター株式会社 BUNKA SHUTTER CO., LTD. |
| 本社 | 東京都文京区西片一丁目17番3号 TEL: 03-5844-7200(代) |
| 創業 | 1955年(昭和30)4月18日 |
| 事業内容 | 各種シャッター、住宅建材、ビル用建材の製造および販売 |
| 資本金 | 15,051百万円(2022年3月31日現在) |
| 決算期 | 毎年3月 |
| 上場/公開 | 東京証券取引所 プライム市場(1973年11月公開) |
| 従業員数 | 4,794人(連結、2022年3月期) |
| 全国営業拠点 | 219カ所 / 連結330カ所(2022年7月1日現在) |

工場 7工場(連結33工場)

| | |
|------|--------------------|
| 千歳工場 | 北海道千歳市北信濃776-4 |
| 秋田工場 | 秋田県秋田市川尻町大川反170-3 |
| 小山工場 | 栃木県小山市大字上石塚1088-1 |
| 掛川工場 | 静岡県掛川市淡陽2-1 |
| 御着工場 | 兵庫県姫路市御国野町御着字深見187 |
| 姫路工場 | 兵庫県姫路市西郷町本郷51-1 |
| 福岡工場 | 福岡県朝倉郡筑前町朝日618 |

ISO認定/登録

| 認定/適用規格 | 組織名 |
|---------------|------------------------|
| ISO/IEC 17025 | ライフイン環境防災研究所 |
| ISO 9001 | 小山工場 BX 新生精機 |
| | 掛川工場 BX ティアール |
| | 姫路工場 BX ルーテス |
| | 御着工場 |
| ISO 14001 | 小山工場 |
| | BX 新生精機 BX テンパル埼玉工場 |

関連会社

| |
|------------------|
| 文化シャッター秋田販売株式会社 |
| 文化シャッター高岡販売株式会社 |
| 不二サッシ株式会社 |
| EUROWINDOW., JSC |

BXグループの事業とグループ会社

| 事業区分 | グループ会社 | | |
|-----------------|--|--|----------------------------|
| シャッター関連 製品事業 | BX 新生精機株式会社 ・BX SHINSEI VIETNAM CO., LTD. | | |
| | BX テンパル株式会社 BX 沖縄文化シャッター株式会社 | | |
| | 建材関連 製品事業 | BX ケンセイ株式会社 BX 文化パネル株式会社 BX 鐵矢株式会社 BX 東北鐵矢株式会社 BX ティアール株式会社 BX 朝日建材株式会社 BX ルーテス株式会社 株式会社エコウッド BX 紅雲株式会社 BX 西山鉄網株式会社 BX カネシン株式会社 | |
| サービス事業 | | 文化シャッターサービス株式会社 | |
| リフォーム事業 | | BX ゆとりリフォーム株式会社 | |
| 海外 | | BX BUNKA VIETNAM CO., LTD. BX BUNKA AUSTRALIA PTY LTD ・STEEL-LINE GARAGE DOORS AUSTRALIA PTY LTD ・STEEL-LINE INSTALLATIONS AUSTRALIA PTY LTD ・STEEL-LINE GARAGE DOORS (WA) PTY LTD ・MISIV PTY LTD ・ARCO (QLD) PTY LTD ・MAX DOOR SOLUTIONS PTY LTD | |
| | | その他事業 | BX あいわ株式会社 BX TOSHO株式会社 |

編集方針

本レポートは、持続可能な社会の構築をめざしたBXグループの活動や、今後めざすべき方向性についてステークホルダーの皆様にご理解いただくために発行しています。

2022年度版のポイント

- 2021年度より「CSR報告書」を「サステナビリティレポート」に改称しています。これまでの価値創造の変遷や企業としての成長を振り返り、改めて私たちが継承すべき精神やめざすべき姿についてグループ全従業員で確認し、これから迎える未来に向けた取り組みをステークホルダーの皆様と共有する内容となっています。
- ESG投資の拡大を受け、当社グループの持続可能な社会に向けた取り組みをESGの枠組みで整理し、E(地球と共に) S(社会と共に・働く仲間と共に) G(成長と共に)ごとに活動報告を掲載しています。
- BXグループでは「人と地球の快適環境」を実現することが当社グループの社会における使命と捉えています。人々が安心して快適に暮らせるだけでなく、地球環境への配慮を両立させる取り組みを特集で紹介しています。

参考にしたガイドラインおよびガイダンス

- ・ 価値協創のための統合的開示・対話ガイダンス
- ・ GRI「サステナビリティ・レポート」スタンダード2016
- ・ ISO 26000：社会的責任に関する手引き
- ・ 環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」
- ・ 国際統合報告フレームワーク



報告対象期間

2021年度(2021年4月～2022年3月)を報告期間としています。ただし一部2022年度の報告も含まれています。組織・役職は2022年9月現在のものです。

報告対象範囲

BXグループ全体を対象としています。文化シャッターのみ、あるいは特定の会社に限定される場合は本文中にその旨を明記しています。グループ全体を指す場合は「BXグループ」と表記しています。

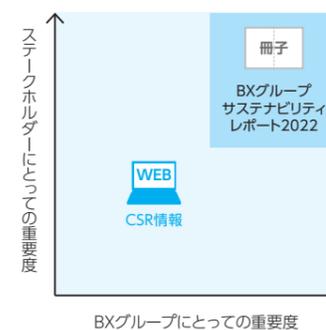
将来の予測等に関する注意事項

本レポートにはBXグループの将来に対する予測・予想・計画等の記載がありますが、これらは現時点での情報に基づいた仮定および判断です。今後事業環境等の変化により影響を受ける可能性があります。

発行日

2022年10月(次回発行日2023年9月予定)

CSRに関する情報開示の全体像



WEB CSR情報

CSR憲章やCSR推進体制などの基盤的情報や、経年の活動など、より詳細な情報を掲載しています

<https://www.bunka-s.co.jp/csrinfo/>

BXグループ サステナビリティ レポート2022

BXグループの活動について年次活動状況や特筆すべきハイライト情報を中心に報告しています

目次

| | |
|------------------------|----|
| 会社概要 | 1 |
| 編集方針・目次 | 2 |
| 価値創造の原点とあゆみ | 3 |
| トップメッセージ | 5 |
| 価値創造プロセス | 7 |
| BXグループの価値創造 ～私たちがめざす姿～ | 9 |
| ESGの強化 | 10 |
| 数字で見るBXグループ | 11 |
| 中期経営計画(2021～2023) | 13 |
| 財務概況 | 14 |
| 事業別概況 基幹事業 | 15 |
| 事業別概況 注力事業 | 17 |

特集：快適環境の追求

| | |
|----------------------------|----|
| BXグループがめざすサステナブルな人と地球の快適環境 | 19 |
| 気候変動に備える ～「ウインドブロックシリーズ」～ | 21 |

| | |
|----------------|----|
| サステナビリティマネジメント | 23 |
|----------------|----|

E 地球と共に

| | |
|------------------------------------|----|
| BXグループの環境マネジメント | 25 |
| 脱炭素化に向けた活動 | 27 |
| サプライチェーンマネジメント | 29 |
| 資源循環の推進 / 廃棄物の削減 | |
| 生物多様性の保全 | |
| 環境人材の育成 | 30 |
| TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)の提言に沿った情報開示 | 31 |

S 社会と共に 働く仲間と共に

| | |
|-----------------------|----|
| 文化活動の支援 | 33 |
| 人権への取り組み / ダイバーシティの推進 | |
| 人材育成 | 34 |
| 従業員の健康増進 | |
| 働き方の革新 | |

G 成長と共に

| | |
|----------------------|----|
| コーポレート・ガバナンスの推進 | 35 |
| 社外取締役からの提言 | 39 |
| リスクマネジメント | 41 |
| 事業を通じた気候変動や災害リスクへの対応 | 43 |

| | |
|-------------------|----|
| 第三者意見/第三者意見をいただいて | 45 |
|-------------------|----|

| | |
|-----|----|
| 用語集 | 46 |
|-----|----|

価値創造の原点とあゆみ

創業者から受け継いだ「奉仕」の精神と、社会課題に取り組む姿勢がグループを成長させる礎となり、今日のBXグループへと発展させました。今後も絶えず変化する社会課題とより深く関わり、価値創造への取り組みを追求することで、「快適環境のソリューショングループ」として進化し続けます。

事業と商品

創業期(1955年～) 徹底的なユーザー視点

文化シャッターの創業は1955年、「お客様第一主義」とも言うべきユーザー視点から誕生した会社でした。以来、お客様に喜んでいただける商品・サービスの追求とそれを支える技術の研鑽に努め、BXグループの発展の礎を築きました。

1958 前処理防錆技術「パーカーライジング法」

業界で初めて防錆処理を導入し、旋風を巻き起こしました。



1959 軽量シャッターの電動化を実現

巻取り機構の収納スペースを必要としない電動式軽量シャッターを開発。これを基盤に、重量電動部門と軽量電動部門の2つの道を歩むことになりました。

1968 業界初の住宅用窓シャッターを発売

「ブラインド雨戸ミニ」は、住宅用に軽量化された画期的な商品でした。多様化するライフスタイルにふさわしい新しい住宅建材として一大ブームを起しました。



1970年～ 総合建材メーカーへ

大阪万博(EXPO'70)で幕を開けた1970年代。文化シャッターは、将来を見据えて住宅用建材事業やビル用建材事業に本格参入し、シャッター事業と共に3つの市場で新たな価値を提供する総合建材メーカーとして歩み始めました。

1973 全国初ユニットバルコニーを発売

鉄工所で製作していたバルコニーを、ユニットバルコニーとして規格化し発売。ビル用建材では、学校向けパーティション、軽量鋼板ドア、店舗用装飾テントなど相次いで商品化し、事業の枠を広げました。

1974 防災シャッターの開発

多くの死傷者を出した大阪千日デパートの火災を契機に、防火性、防煙性に優れたシャッターを開発し、社会の要請に応えました。



1982 アフターサービス体制を強化

24時間365日サービス体制を確立し、次いで1986年には業界で初めてサービスカーに「カー無線」を導入しました。



1990年～ 高付加価値への挑戦

1992年3月に売上高1,000億円を達成。さらなる高みをめざし、「技術力」を駆使した特殊物件への挑戦や、省エネに優れた環境配慮商品の提供など、ユーザー視点に基づいた高付加価値商品やサービスへの追求に拍車がかかりました。

1991 業界初、耐火試験炉を完成

桶川テクニカルセンターに自社内試験炉を導入。耐火性の高い商品開発の迅速化につなげました。



1999 省エネ効果の高い環境配慮商品の開発

高速シートシャッター「エア・キーパー大間迅」が誕生。開閉速度は通常シャッターの10倍以上で気密性、耐風性が高く、省エネに優れた商品として注目を集めました。



2000 試験・検証施設「試験センター」を開設

桶川テクニカルセンターの機能を拡充。自社内の試験設備を充実させ、検証データを蓄積することで「技術力」の向上と商品化へのスピードアップにつながりました。

2005年～ 快適環境のソリューショングループへ

2006年に掲げた「快適環境のソリューショングループ」は健やかな地球環境のもとで人々が快適に暮らすために生活全般をソリューションするBXグループのあるべき姿です。持続可能な社会への貢献がグループの成長・発展につながる課題解決型の経営への探求が始まりました。

2007 循環型社会に貢献する環境配慮商品の開発

廃木材と廃プラスチックを原料とした木材・プラスチック再生複合材「テックモク」を発売。廃棄物の削減や資源保護、環境保全への配慮で循環型社会の実現に貢献しています。



2008 「BUNKA VIETNAM CO.,LTD.」を設立

2010年にハノイ郊外の工業団地内に竣工した工場でシャッター・ドア等の生産を開始しました。これを足掛かりにASEAN諸国を中心とした海外展開が進みました。

2010 太陽光発電システム事業に参入

金属加工のノウハウや全国にわたる建築関係の商流、施工体制などの経営資源を活用した新事業として再生可能エネルギーの普及促進に貢献しています。



2012年～ さらなる快適環境の追求

マーケットインの発想をより進化させ、お客様の生活全般を捉える「ライフ・イン」とお客様との持続的な信頼関係を築く「ライフロング・パートナーシップ」をソリューションの基軸に据え、快適環境のさらなる追求により持続可能な社会の実現と企業価値の向上に取り組んでいます。

2012 浸水から社会を守る止水事業に参入

業界に先駆けて止水事業を立ち上げ、オリジナルの止水商品を開発、発売。自治体や企業などのBCP対策に採用いただき、「超」モノづくり部品大賞(生活関連部品賞)などの評価をいただいています。

2017 ライフイン環境防災研究所に名称変更

2008年、より一層の開発スピード向上を図るため「試験センター」に新たなコンセプトを加えた「ライフインセンター」を開設。2017年には事業テーマ「エコと防災」にちなみ、「ライフイン環境防災研究所」として生まれ変わりました。国際規格ISO/IEC 17025を取得した試験施設として認定されており、BXグループの「技術力」を支えています。



2021 事業の脱炭素化への取り組みを開始

2050年までに事業活動における脱炭素化を宣言。環境ビジョンを策定し、環境負荷の低減のみならず、環境へのプラスの価値を創造し、快適環境を次世代へとつなげます。

コーポレートブランド



Bは文化シャッター、Xは未知数、無限性、掛け合わせる力の意味します。何を掛け合わせるかによって、常識を超えたイノベーションが生まれ、それは無限に広がる可能性を秘めています。そしてこの鮮やかなスカイブルーは、BXグループがめざす『快適環境創造企業』として、地球環境の美しさを象徴する青空の広がりをイメージしたものです。

CSR憲章

成長と共に

公正で誠実な事業活動を通じ、お客様から満足され信頼される商品・サービスを提供し、快適環境の創造を基本として、文化シャッターグループの成長を追求します

社会と共に

人々の心を豊かにする活動に参加、支援することにより、良き企業市民として、社会の発展に貢献します

地球と共に

「快適環境」の実現に向け、人・社会・環境に配慮した経営を推進し、地球環境の保全に貢献します

働く仲間と共に

働く仲間の個性と創造性を尊重し、一人ひとりの満足と成長をめざします

ブランド理念体系

私たちが大切にしている創業の精神

仕奉と実誠

「誠実をもって社会に奉仕する」

社是

誠実 誠実とは心のふれあいである。真心のふれあいでは信頼は生まれる。

努力 努力とは、創造する行為の持続力である。

奉仕 奉仕は、自発的な行為・行動で、お客様や社会のお役に立つこと。

経営理念

私たちは、常にお客様の立場に立って行動します
私たちは、優れた品質で社会の発展に貢献します
私たちは、積極性と和を重んじ日々前進します

トップメッセージ

「人と地球の快適環境」を創造する 企業としての存在意義を高めていきます



昨年2021年に文化シャッターの社長に就任し、1年が経ちました。不確実性が増す社会において、BXグループも多くの経営課題に直面しており、改めて先人たちが築き上げてきた歴史の重さを感じています。当社グループは創業以来、安心・安全という価値提供を通じて社会の発展に貢献することを理念とし、時代に応じた課題解決型の経営を実践することで今日に至る成長を遂げてきました。数々の難題に挑戦し、道を切り開いてきた先人たちの思いを受け継ぎ、ご期待以上の価値提供に努めることが私に与えられた使命だと考えています。

人々が快適に、そして安心・安全に暮らしながらも、自然資源や環境を損なわない持続可能性を両立させることが、私たちの追求する「快適環境」です。BXグループは「快適環境」の追求を通じて持続可能な成長と企業価値の向上に向けて取り組んでまいります。

代表取締役社長 執行役員社長

小倉博之

振り返りと中期経営計画の進捗状況

長引く新型コロナウイルス感染症の影響や経済不安などの要因により、一時ボリュームダウンを余儀なくされた建築市場も回復の兆しを見せ、企業の設備投資は増加傾向にあります。

一方で、原価高騰の影響も大きく、昨年度は当社グループにとって厳しい経営環境と言わざるを得ない年となりました。当初は業績への影響を覚悟していましたが、民間非住宅着工床面積は、倉庫、工場、事務所等が軒並み増加したこと

で、主に倉庫向け重量シャッターや、アフターサービス等で売り上げを伸ばし、2期ぶりの増収となりました。

2021年度にスタートした中期経営計画は、人々の暮らしや地球環境など、あらゆる場面における「快適環境」をさまざまな角度から追求し、未来志向で事業の発展に取り組む2023年度までの事業計画です。先行きが不透明なこの時代に、急速に変化するビジネス環境においても揺るぎのない成長を遂げ

るために、主力事業の基盤を強化する一方で、当社グループの未来を担う事業を育て、発展させていく、この両輪のバランスを取ることで経営のレジリエンスを高めていきます。

収益基盤となるシャッター・ドア等の基幹事業では、住宅や建物のスマート化、インテリジェンス化に対応する商品のIoT化を進め、ニューノーマルの時代に応じた生活ニーズを満たす改善と深化を繰り返すことで期待以上の付加価値を提供し、お客様との末永いパートナーシップをめざします。

注力事業では、気候変動を緩和し、また同時に気候リスクに備え適応するという観点から、地球環境保全や都市の強靱化に貢献するエコ&防災事業とメンテナンス・ロングライフ

事業をメインとして課題解決の領域を拡大させます。併せて当社グループにとって突き抜けた強みとなるような新たな価値の創出にも挑戦していきます。

また、当社グループの「革新と挑戦」を下支えする基盤強化を図るため、投下資本に対して当社グループが創出する経済的付加価値を「BxVA」と定義し、2030年までに30億円まで増加させることを目標としています。

中期経営計画の初年度を終え、計画未達が目立ち課題が残る結果となりましたが、都市再開発事業やインフラ再整備等の需要は高まりを見せており、未来を見据えた提案営業による成果が期待できると考えています。

ESG視点でのリスクと機会

中期経営計画では、ESGを強化するための目標を定め、事業リスクを回避するESGの視点を経営戦略に組み込んでいます。

特に当社グループにとってリスクが高いと想定される環境分野においては、「人と地球の持続可能な快適環境」の実現に向け、2021年度に「BXグループ2050年脱炭素宣言」を表明しました。さらに今年度は環境ビジョン「Blue neXpand 2050～未来にひろげよう青空を～」を策定、2050年に向けためざす未来の姿を明確にし、気候変動への対応、資源循環の実現、自然との共生を優先して取り組むべき重点領域としました。

また、気候変動による事業リスクや機会が経営に及ぼす影響を財務面で評価分析し、TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）に基づいた開示を実施しました。今後はこの分析結果を踏まえ、対応策を含めた議論を深めていきたいと考えています。

社会面においては、働き方の革新を図るほか、SDGsの理念である人権尊重への取り組みやダイバーシティ&インクルージョン、人的資本への積極的な投資を進め、当社グループが文化として継承してきた「人を大切にする会社」を実践していきます。

ガバナンスについては、取締役会の実効性評価の実施や指名・報酬委員会の設置など、経営のチェック機能が適切に発揮される体制の整備を随時推進しています。

これらの各施策についてPDCAサイクルの運用により着実に成果を上げるために、今年度はCSR4憲章マテリアリティの見直しを図り、進捗の指標となるKPI（目標達成指標）を設定しました。

ESGを強化することで将来的、潜在的なリスクと機会を見極め、持続可能性と安定性の確保に努めていきます。

BXグループの社会における存在意義を高める

私たちBXグループは、「快適環境創造企業」です。時代や環境が変化しても、多彩なものづくりを通じて持続可能な快適環境を提供し続けることで人々の幸せを実現することが私たちの使命でもあり、また、社会の中におけるパーパス（存在意義）でもあるのです。パーパスを基軸とした強い組織体となることで、当社グループの従業員、そしてビジネスパートナーの皆様にとっても誇りと思っていただけるような会社になりたいと考えています。

社会やステークホルダーの皆様から頼られ、また選ばれる企業となることをめざし、今後も持続可能な社会の実現とBXグループの価値向上に全社一丸となって取り組んでまいります。



価値創造プロセス

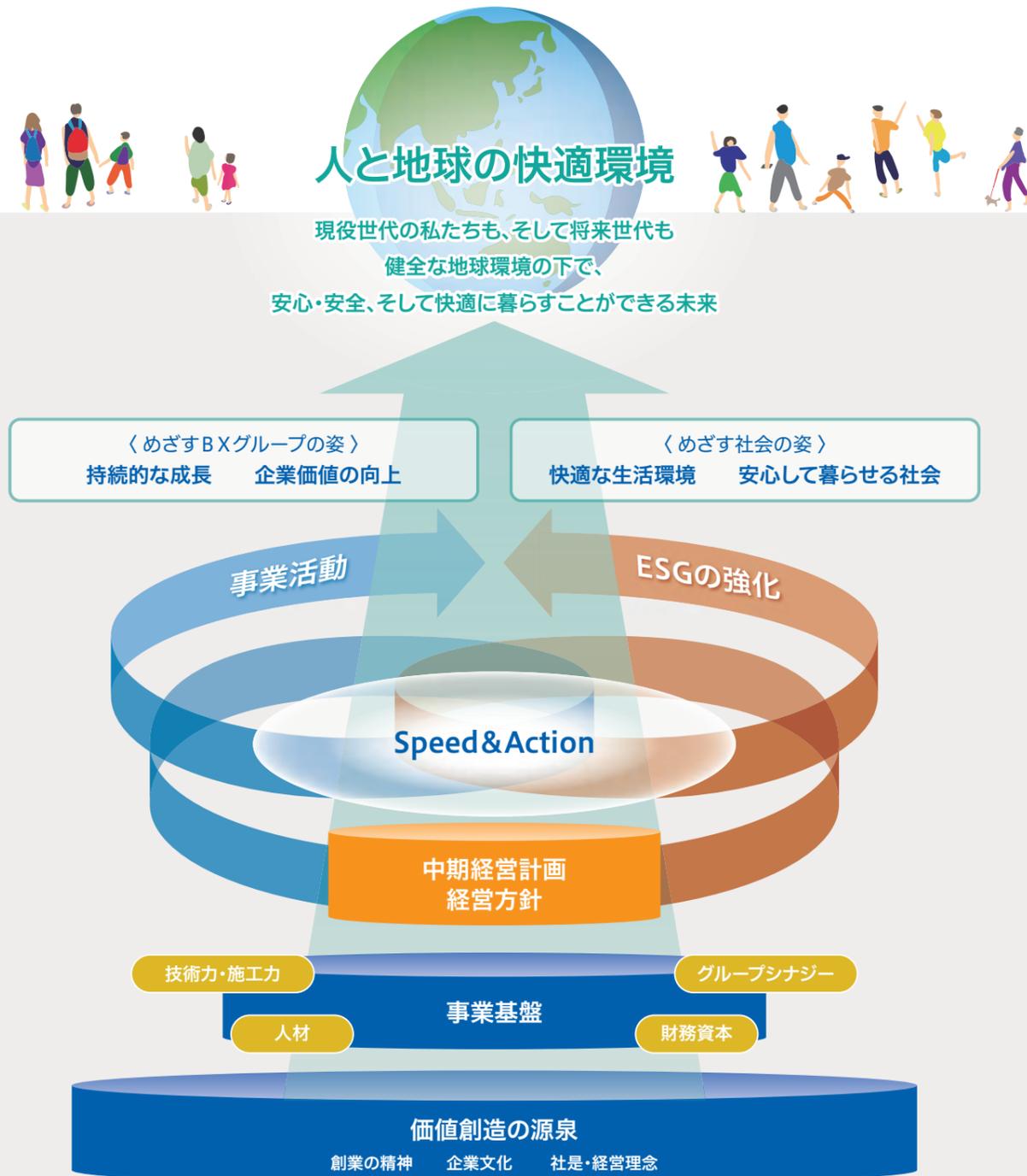
創業以来培ってきた「技術力」と「施工力」を強みに、グループ間連携によるシナジー効果を発揮することで、新たな価値を時代に先駆け提供する価値創造プロセスの実現に取り組んでいます。独自の成長モデルである「BX-CSV」(社会と共有する価値の創造)による持続可能な社会への貢献により、さらなる企業価値の向上をめざします。



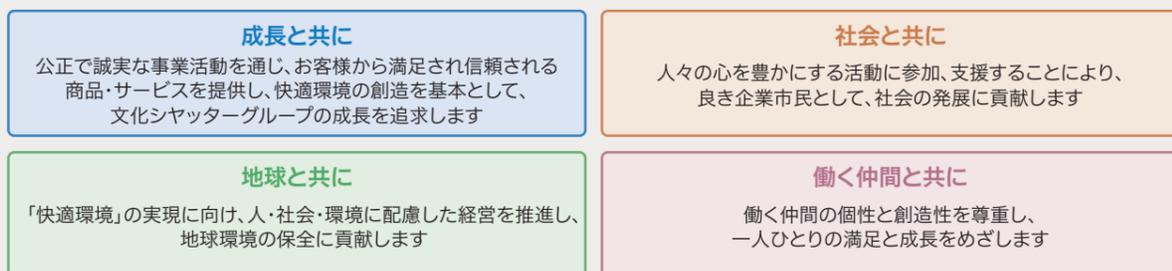
中期経営計画ビジョン 未来を切り開く、快適環境のソリューショングループをめざして



BXグループの価値創造 ～私たちがめざす姿～



社是・経営理念を実現するCSRの基盤的取り組みは、2006年に制定したCSR4憲章に基づき、組織的、体系的に推進しています。



ESGの強化

関連情報 → P23-24 サステナビリティマネジメント

ESGを強化するマテリアリティの特定

BXグループでは、社会的重要度と、当社グループの成長・発展について影響度を評価し、優先して取り組むべき課題をマテリアリティとして特定、PDCAサイクルを運用し、取り組みを推進しています。

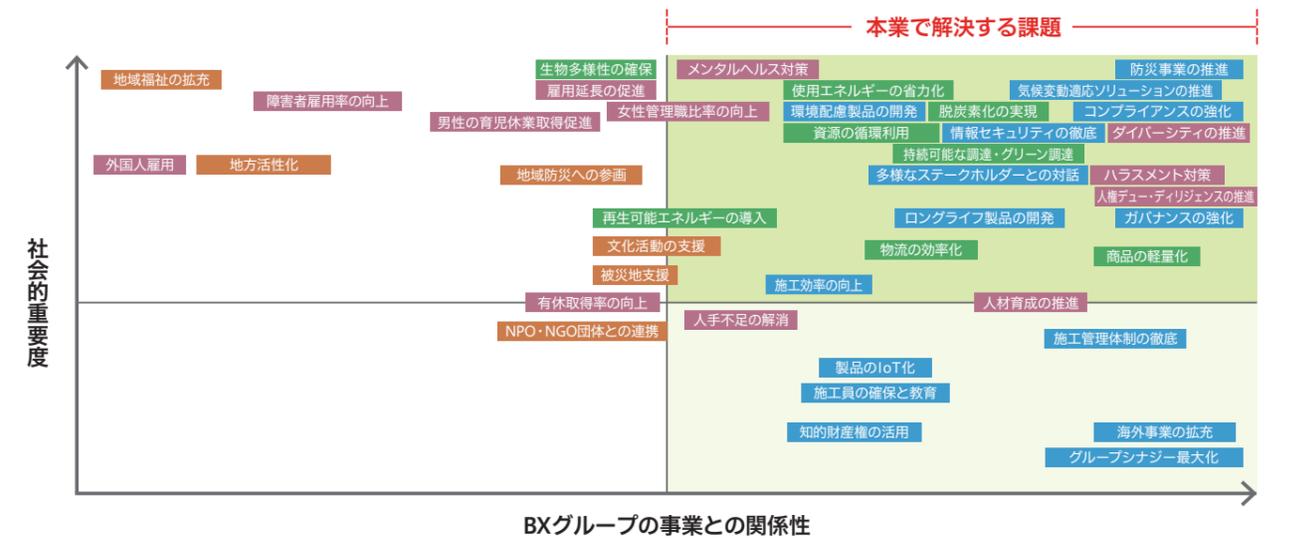
この度、社会におけるサステナビリティの重要性の高まりや、課題の変化に対応し、さらなる企業評価向上に向けた取り組みを推進するため、2019年に設定したマテリアリティの見直しを図りました。

マテリアリティの見直しについて

社会全般、バリューチェーン全体の両側面から社会課題を抽出、当社グループの事業活動に影響を与える可能性のある課題をリスクと機会の観点から評価し、マッピングしました。社会と当社グループ双方にとって重要度の高い課題をCSR4憲章ごとに特定し、推進の指標となるKPIを設定しました。

各施策の進捗は、「成長と共に委員会」「社会と共に委員会」「地球と共に委員会」「働く仲間と共に委員会」の各委員会でもモニタリングされ、サステナビリティ委員会に報告されます。

※2022年より、CSR委員会をサステナビリティ委員会に改称しました。



CSR4憲章マテリアリティ

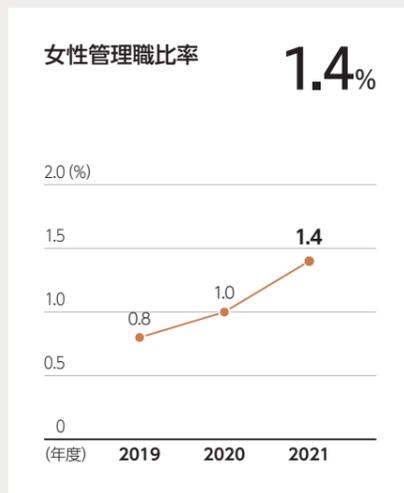
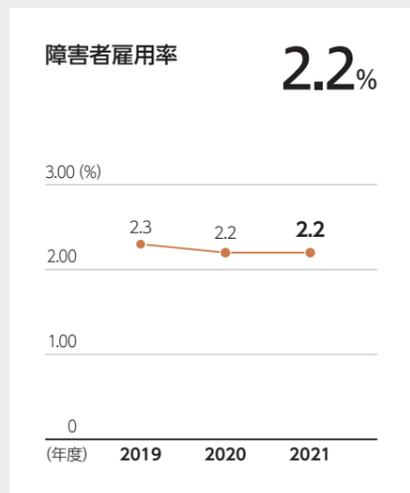
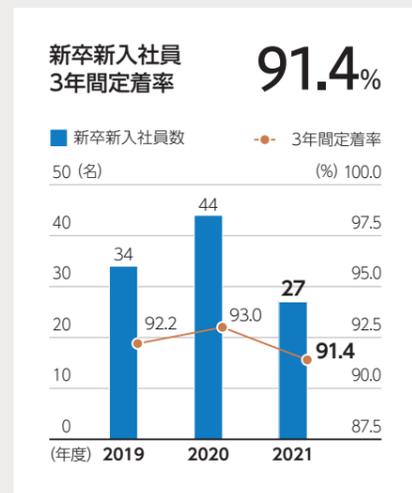
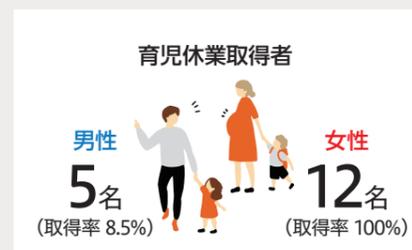
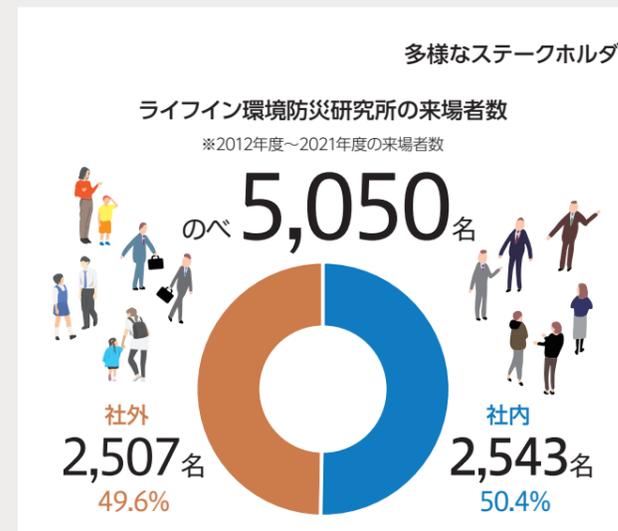
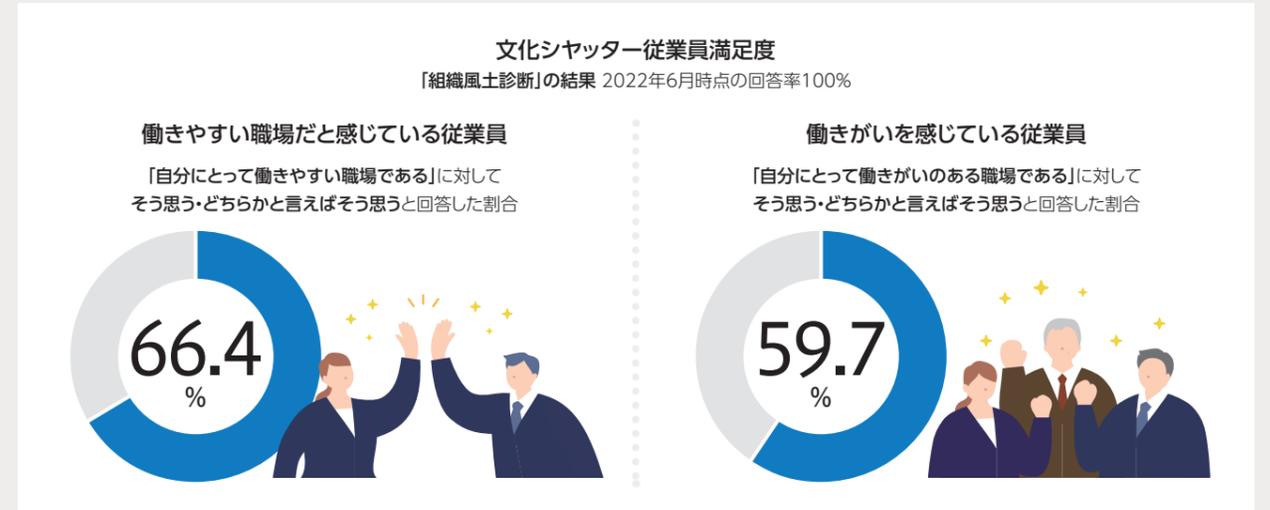
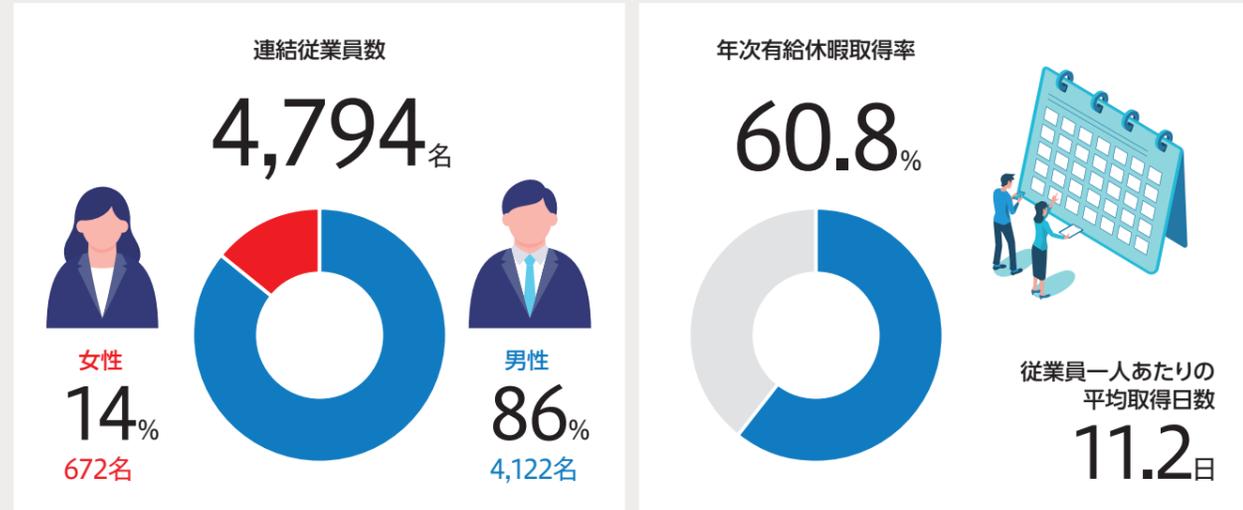
上図分析により、BXグループが優先する社会課題を再特定しました。

| ESG | CSR憲章 | マテリアリティ | 貢献するSDGs | |
|----------------|---------|--------------------------------|--|-----------------------|
| E 環境 | 地球と共に | 環境負荷を軽減した企業経営 環境配慮技術・商品開発 | 脱炭素化に向けた活動 サプライチェーン・マネジメント 資源循環の推進 廃棄物の削減 | 7, 12, 13, 14, 15, 16 |
| | | 自主的な環境保全活動 | 生物多様性の保全 | 15 |
| S 社会 | 社会と共に | 企業市民としての社会貢献 | 地域との共創 自治体・他団体等との連携 | 3, 4, 11 |
| | | 人道的社会貢献 | 地域防災と被災地支援の推進 | 17 |
| | 働く仲間と共に | 文化活動の支援 | 文化活動の支援 | 14 |
| 人権の尊重 雇用の創出 | | 人権デュー・ディリジェンスの推進 ダイバーシティの推進 | 3, 4, 5, 8 | |
| G ガバナンス | 成長と共に | 満足度の向上 | 人材育成 従業員の健康促進 働き方の革新 | 3, 4, 5, 8 |
| | | お客様の満足を追求 | 多様なステークホルダーとの対話 | 9, 11, 13 |
| | | グループの成長・発展 | 事業を通じた気候変動や災害リスクへの対応 技術力・施工力の強化 | 13, 16, 17 |
| | 誠実な企業経営 | コーポレート・ガバナンスの推進 コンプライアンスの徹底 | 16, 17 | |

数字で見るBXグループ

※「連結」[BXグループ]以外のデータは「単体」で算出

関連情報 → WEB ESGデータ集



中期経営計画(2021~2023)

時代や環境が変化しても「多彩なものづくり」とそれらの「サービス」を通じて社会の発展に貢献すると共に、安心・安全の提供により人々の幸せを実現することがBXグループの使命です。
急激に変化する社会環境に主体的に対応し、未来志向で事業の発展に取り組み、快適環境を追求します。

本計画では以下の3つの「主要テーマ」でさらなる経済的価値と社会的価値の向上をめざします。

I. 資本コストとバランスシート経営を意識し、最適資本構成についての方針に基づき経営戦略を推進する

中期経営計画の経営指標

| | 2020年度実績 | 2021年度実績 | 2023年度 |
|---------------|----------|----------|---------|
| 売上高 | 1,731億円 | 1,823億円 | 2,000億円 |
| 営業利益 | 105億円 | 91億円 | 146億円 |
| 営業利益率 | 6.1% | 5.0% | 7.3% |
| 自己資本利益率(ROE) | 10.4% | 8.0% | 11.5% |
| 投下資本利益率(ROIC) | 7.6% | 5.2% | 10.5% |
| B x V A | 3億円 | -20億円 | 30億円 |
| B x V A スプレッド | 0.3% | -2.1% | 3.2% |
| D E レ シ オ | 0.18 | 0.19 | 0.20以下 |
| 自己資本比率 | 50.1% | 48.7% | 51.9% |

資本コスト

| | |
|---------|---------|
| WACC | 7.3%を目標 |
| 株主資本コスト | 8.5%を目標 |
| 負債コスト | 0.7%を目標 |

※ BxVA(Bx Value Addedの略)
投下資本に対する付加価値額を表す。計画値は法人実効税率30.62%として計算。

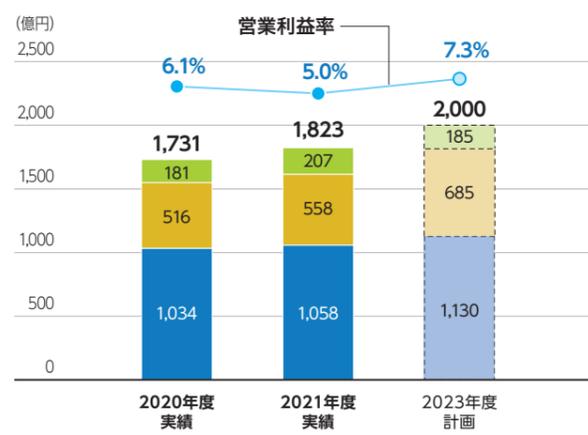
II. 自社株買いを含め、株主還元を大幅に強化する

株主還元政策

- 配当性向は35%を目安。
- 自己株式取得を新中期経営計画の3年間で100億円+αを計画。
(αはM&Aが条件や機会等の都合上計画どおりに進まない場合)

III. 基幹事業は生産性の向上を追求、注力事業は規模を拡大することで売上高構成比率34.0%超をめざす

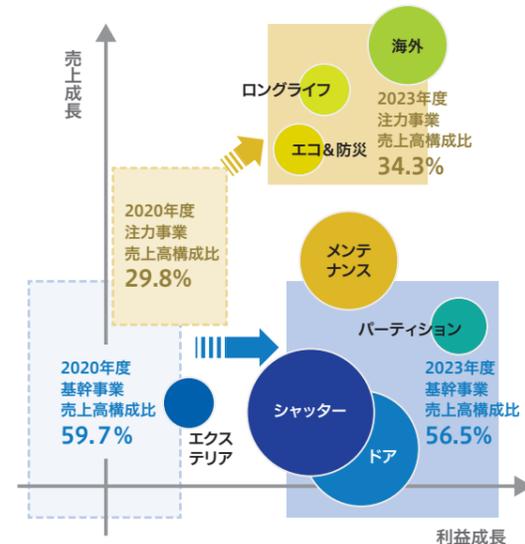
事業別売上高



- 基幹事業 シャッター群、ドア群、パーティション群、エクステリア群
- 注力事業 エコ&防災事業(止水事業、オーニング、テックモク)、ロングライフ事業(単体リニューアル事業、BXゆとりリフォーム)、海外事業(単体海外事業、BX BUNKA AUSTRALIA、BX BUNKA VIETNAM)、特殊建材事業、メンテナンス事業(単体メンテナンス、文化シャッターサービス)
- 住宅資材・その他事業 住宅資材事業(住宅基礎鉄筋、木造建築金物)、その他事業

2023年度 各事業成長ポートフォリオ

※ 四角・円のサイズは各事業の売上規模

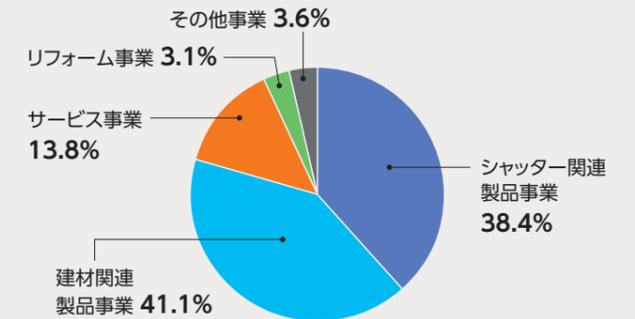


財務概況

売上高/売上総利益率



セグメント別売上高構成比



営業利益/営業利益率



親会社株主に帰属する当期純利益/ROE(自己資本当期純利益率)



自己資本/自己資本比率



1株当たり配当額/配当性向



基幹事業

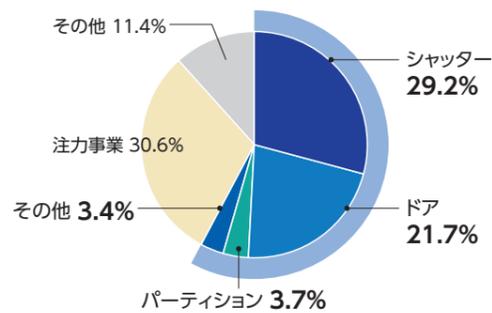
創業当初よりBXグループの成長を支えてきたシャッター、ドア等を製造・販売する基幹事業では、防火・防犯はもとより、防風・防水、ユニバーサルデザイン化やIoT化など、変化する社会のニーズを捉え、生活者の視点に立った商品開発により、人々の暮らしやビジネスシーンを支えています。



事業概況

国内外の景気回復を受け、建設・住宅業界においても民間設備投資は緩やかながら持ち直しの動きがみられましたが、鋼材をはじめとした原材料やエネルギーの価格高騰の影響は大きく、依然として先行き不透明な状況が続いています。AIやIoTの導入を背景とした研究開発費やIT投資、首都圏を中心とした都市再開発、eコマースの拡大に伴う大型物流倉庫など、設備投資の持ち直しの動きから、非住宅を中心に引き続き建設需要が見込まれますが、住宅投資については、コロナ禍において先送りされていた需要が顕在化するものの、住宅着工戸数の鈍化によりやや軟調に推移すると見込まれます。

売上高構成比：基幹事業 58%



中計戦略

■ シャッター事業

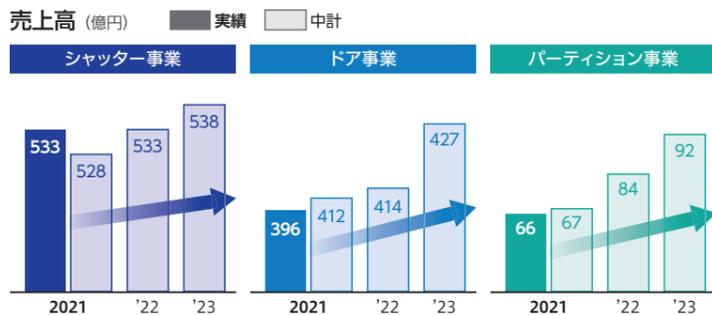
堅調に推移する大型物流倉庫を中心に都市再開発物件も含め重量シャッター群の受注拡大を図ります。軽量シャッター群はガレージシャッターを中心に、高付加価値商品の拡販に注力し、窓シャッター群は既存窓シャッターのメンテナンスおよび電動化を推進します。

■ ドア事業

都市圏において堅調に推移する再開発物件を中心に、ビル用ドア商品の受注拡大を図ると共に、グループ会社とのシナジー効果の最大化を図り、生産力の強化を進めます。

■ パーティション事業

文部科学省が公表する「施設整備基本方針」に基づいた学校施設における防災機能の強化のための「地震動対策」機能を追加した「学校用間仕切」を中心に、安心・安全を追求した高付加価値商品の提案を推進します。



2021年度の進捗と2022年度の展望

シャッター事業

主な商品

- ガレージシャッター
- 重量シャッター
- 軽量シャッター
- 窓シャッター
- オーバースライディングドア
- 高速シートシャッター ほか

大型物流倉庫向けの重量シャッターの拡販が牽引し、売上高533億円(計画値比0.9%増)。

防災商品の拡充と共に、引き続き大型物流倉庫、再開発物件向けの重量シャッターの拡販および、電動タイプを中心とした高付加価値商品の積極提案により収益拡大につなげていきます。



オーバースライディングドア
重量・大型アルミタイプ

ドア事業

主な商品

- スチールドア
- マンションドア
- ホテルドア
- 引戸・折れ戸
- ステンレス建具
- 木製建具 ほか

2020年度末の受注残高減少の影響を受け、オフィスビル、公共施設向けのドアが低調に推移し、売上高396億円(計画値比3.9%減)。

今後も堅調に推移していくとみられる首都圏を中心とした都市再開発物件を中心に、「接着工法」*によるスチールドアの拡販を積極的に推進していくことで、収益拡大につなげていきます。



地震などの外力による枠の変形が生じても開放可能な耐震性能を兼ね備えた
マンション玄関引戸「ヴァリフェイスAe」

関連情報 → TOPICS

パーティション事業

主な商品

- 学校用間仕切
- アルミパーティション
- スチールパーティション
- スライディングウォール
- トイレブース
- 避難所用間仕切 ほか

地震動対策機能を追加した学校向け間仕切の拡販が牽引し、売上高66億円(計画値比1.5%減)。

災害時には地域住民の避難場所としても重要な役割を持ち、耐震化、長寿命化が求められている学校施設を中心に、引き続きストック市場の掘り起こしに注力することで、受注拡大をめざしていきます。



ニューノーマルな時代のニーズを反映した
抗ウイルス仕様トイレブース

***接着工法** 接着剤を使用した組み立て方法として、新たに「公共建築工事標準仕様書」に追加されました。「接着工法」は、溶接と比べ作業時間が大幅に短縮されます。さらに、溶接に伴う有毒ガスなどの発生を防ぎ、作業環境の改善が図れるだけでなく電力使用量も削減する、環境負荷を低減した工法です。性能も溶接工法と同等以上で、建築基準法で定められた特定防火設備(適合品)となっています。

TOPICS

車2台分の最大間口6mまで対応した“防火設備”仕様の住宅用オーバースライディングドア「フラムヴェスタ」



住宅用オーバースライディングドアとして、初めて車2台分の間口サイズの防火設備に対応した「フラムヴェスタ」は、その高い意匠性のみならず、独自のパネル構造で耐風圧性能は正圧・負圧共に800Paと、ガレージ用オーバースライディングドアでは最高性能を誇ります。障害物感知センサーも標準搭載し、高い安全性を実現するだけでなく、乗車したままシャッターの自動開閉が可能な車載用自動開閉リモコン「セレクルーズII」やスマートフォン、スマートスピーカーでの開閉操作にも対応し、快適なスマートライフを実現します。

TOPICS

「接着工法」と「薄板化」により環境負荷低減に貢献する スチールドア



当社のスチールドアは、2022年度より公共建築物にも適用となった「接着工法」を用いています。「接着工法」では溶接や研磨をしないためドアを傷めず、防錆性能が保たれ、長寿命化が図れるだけでなく、意匠性にも優れています。さらに当社の請負物件の多くを占める民間工事に関しては、ドアの表面材に用いる鋼板の板厚を1.6mmから1.2mmに「薄板化」したことで、コスト削減や軽量化による利便性を高め、製造過程で発生するCO₂の削減などに貢献しています。このように、製造や取付時の電力消費量などを抑えた「接着工法」と「薄板化」により、環境負荷の低減に貢献していきます。

注力事業

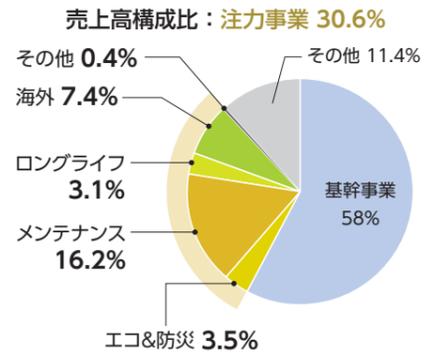
注力事業では、地球環境への負荷を軽減する「緩和」と気候変動に伴う災害に備える「適応」を目的としたエコ&防災事業をはじめ、事故や故障を未然に防ぎ、安心・安全にご利用いただくためのメンテナンス事業、都市の老朽化や住環境の変化に対応するロングライフ事業および海外事業を展開しています。



事業概況

気候変動の影響による災害の激甚化、頻発化や、大規模地震等に伴う環境意識、防災・減災意識の高まりと、政府による住宅や建物の脱炭素化に向けたZEH・ZEBの普及促進などを受けて、エコ&防災事業やメンテナンス事業は引き続き堅調に推移していくものと予想されます。

ロングライフ事業については、コロナ禍の影響で落ち込んでいた市場に回復傾向がみられ、非住宅分野だけでなく、住宅分野においても新しい生活様式に合わせた空間利用のニーズの高まりから市場が回復していくものと見込まれます。



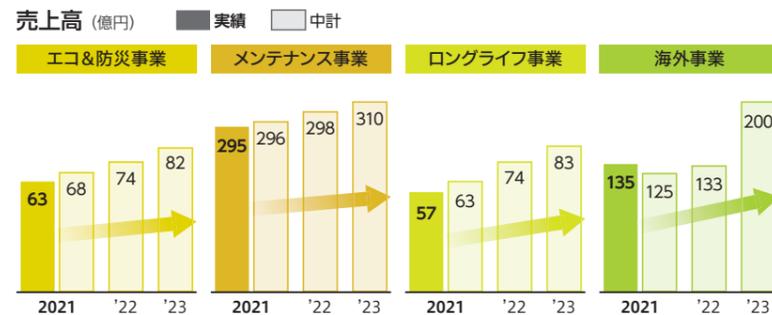
中計戦略

■ エコ&防災事業 エコ事業では、SDGsに適合する環境配慮商品として木材・プラスチック再生複合材「テクモク」およびオーニングの提案継続を進めます。防災事業では、止水商品の普及拡大に努め、M&Aやアライアンスも視野に入れ、事業の拡大を推進します。

■ メンテナンス事業 グループの総合力を武器とした法定点検の対応強化と、24時間365日対応のアフターメンテナンス体制のさらなる充実に努めます。

■ ロングライフ事業 住宅リフォーム事業では生産性向上やWEBコンテンツの強化、コロナ収束後を見据えた営業力、集客力の強化およびリフォーム相談会の定期的な開催に注力します。ビルリニューアル事業においては、耐震・浸水対策をキーワードとした提案力の強化に努めます。

■ 海外事業 急激な市場の変化にも対応できるよう、事業基盤の強化による利益拡大と、M&Aを視野に入れた事業拡大を図ります。



TOPICS

オーストラリアのシャッターメーカー MAX DOOR SOLUTIONS PTY LTDを完全子会社化

2022年7月、BX BUNKA AUSTRALIAはMAX DOOR SOLUTIONS PTY LTDを傘下に迎え入れました。MAX DOOR社はオーストラリアで産業・商業施設向けシャッターの設計・製造・販売・メンテナンスを行うシャッターメーカーです。

高い気密性でエネルギー消費を抑える高速シートシャッターをはじめ、セキュリティと断熱性を備えながら高速・静音仕様のシャッターなどを展開するだけでなく、長く安全に製品を使っていただくためにメンテナンスサービスを提供しています。

MAX DOOR社の気密性に優れた高速シートシャッター [RAPIDMAX® Plus] ▶



2021年度の進捗と2022年度の展望

エコ&防災事業

主な商品

エコ事業 木材・プラスチック再生複合材「テクモク」各種オーニング ほか

防災事業 「止水マスターシリーズ」 「ウインドブロックシリーズ」 ほか

社会問題化しているゲリラ豪雨等に対応する浸水防止用設備を手がける止水事業と、日よけ商品のオーニングを中心としたエコ事業が堅調に推移し、売上高63億円(計画値比7.4%減)。

災害に強い街づくりに貢献するため、引き続き気候変動リスクに対応するエコ&止水商品を積極的に提案し、受注を拡大していきます。



通用口のスチールドアを簡単&スピーディーに浸水対策できるアルミ製止水板「ラクセットSDタイプ」

メンテナンス事業

事業内容

既設シャッターやドア、パーティションなどの建材の修理・メンテナンスや防火設備の保守点検

緊急修理対応および法定点検を含めた定期保守メンテナンス契約等が堅調に推移し、売上高295億円(計画値比0.3%減)。

メンテナンス事業部と文化シャッターサービスによるグループ連携の強化により、建築基準法で義務化されている防火設備の法定点検の受注を拡大していきます。

ロングライフ事業

事業内容

住宅向けリフォーム事業 水回り・内装から外壁・エクステリアなどの外構リフォーム ほか

ビルリニューアル事業 耐震補強工事、大規模修繕、ユニバーサルデザインのトイレ・ドアなどの導入支援 ほか

住宅リフォーム事業では新規引合件数の増加と受注単価の引き上げにより、ビルリニューアル事業では提案力の強化により共に、売上を牽引し、売上高57億円(計画値比9.5%減)。

水回りを中心とした住宅リフォーム提案の強化および耐震や止水をキーワードとしたビルリニューアルの提案の強化をしていきます。

海外事業

事業内容

ベトナムとオーストラリアの2拠点におけるシャッターおよびドア等の製造・販売

新型コロナウイルス感染症拡大によるロックダウンの影響はあったもののオーストラリアでの事業が牽引し、海外事業売上高比率は0.8%アップの7.4%に向上、売上高135億円(計画値比8.0%増)。

海外事業売上高比率10%に向けて、オーストラリアでは販売価格の引き上げと産業・商業施設向け事業の拡大を、ベトナムにおいてはローカル市場向けの売上拡大を強化していきます。

VOICE

BX BUNKA AUSTRALIA CEO **Aaron Dillaway**



私たちBX BUNKA AUSTRALIAは40年にわたりオーストラリアでガレージドアの販売を続けるオーストラリア最大のガレージドアメーカーです。STEEL-LINE GARAGE DOORS、DYNAMIC DOOR SERVICE、STEEL-LINE GARAGE DOORS (WA) など、市場をリードする住宅向け中心のガレージドアブランドで構成され、2019年にARCO (QLD)とRETROTECH DOOR SERVICESを、そして2022年7月にはMAX DOOR SOLUTIONSを新たな仲間に加え、商業・産業用ドア市場に進出しました。MAX DOOR社の加入は、オーストラリアの商業・産業用ガレージドア

市場における当社のビジョンと成長戦略の助力となります。特に環境に配慮した持続可能な製品を提供するという当社の姿勢を強化すると共に、強度、耐久性、操作性の3つのシンプルな設計基準に則った高品質の製品群を拡充することができます。

近年、オーストラリアでは気候変動リスクの観点から、エネルギー効率を重視した工場や倉庫の需要が高まっており、MAX DOOR社の環境に優しい製品は、断熱性をはじめ高速開閉に伴う建物内への外気流入を最小限に抑えることでCO2の削減効果があるエコ製品としてますます採用が進んでいます。

当社は、環境に関するベストプラクティスの模範となり、持続可能な組織となることを目標としています。住宅用、商業・産業用両市場におけるリーダー的地位を維持するために、人材と、技術革新および継続的改善による製品品質へのさらなる投資を続け、事業拡大をめざしていきます。

BXグループがめざす サステナブルな人と地球の快適環境

BXグループは、「快適環境のソリューショングループ」として、さまざまな角度から快適性の追求に取り組んでいます。人々が安心して暮らせるだけでなく、地球環境への配慮を両立させ、快適に暮らしながら持続可能性を実現させることをめざし、日々研究開発への努力を重ねています。また、暮らしの中にIoTの技術を取り入れることで、共働き世帯の増加や、高齢化が加速する社会に対応し、生活の利便性を格段に向上させる商品展開にも注力しています。今後もBXグループは人と地球の快適環境の実現に向け、新たな価値の創造に取り組んでいきます。

関連情報 → WEB 快適環境設計工房

快適な地球環境 ～地球温暖化を防止する～

日差しを遮り快適な空間を創る

オーニング

BXテンパルで事業展開する「日よけ」「雨覆い」を意味するオーニング (awning) は、室内の温度を下げエアコンの効果を高めることで、高い省エネ効果を発揮します。また屋外では直射日光を遮り、日陰を作ることで体感温度を下げ、暑熱対策ができます。



遮光しながら風を通し快適な室内空間を創る

省エネ 暑熱対策

外付けブラインド
「マドマスターソラル」

ブラインドのように採光と遮光のバランスを取りながら、通風・換気ができる電動ブラインドシャッター。防犯と通風を両立でき、省エネ効果を高めます。 関連情報 → P43



循環型社会の実現 ～資源を循環活用する～

耐久性に優れ、天然木の風合いが演出する安心な空間

100%リサイクル建材 廃木材・廃プラ活用

木材・プラスチック再生複合材
「テクモク」

テクモクは、建築解体現場や工場などから排出される廃木材と、廃棄処分となったプラスチックを原材料とした100%リサイクル建材です。木とプラスチック双方の特性が活かされ、高い耐久性と安定した強度、天然木に近い手触りなど数々のメリットをもたらします。

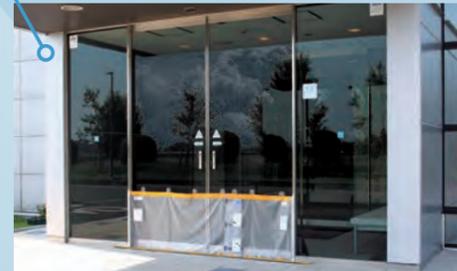


安心・安全な暮らし

～快適な暮らしを守る～

集中豪雨による
都市型水害に備える

気候変動に備える 浸水対策



「止水マスターシリーズ」

建物への浸水被害を最小限に抑えるために、短時間で簡単かつスピーディーに設置できる止水商品を「止水マスターシリーズ」としてラインアップしています。

地震に備える



学校用間仕切「プレウォール」

震度7クラスの地震でも間仕切を構成する部材が倒れたり脱落しない安心設計。ライフイン環境防災研究所にて地震動試験を実施し、安全性を確認しています。

火災に備える



防火・防煙シャッター

火災時の有害な煙や熱の発生を感知し、自動的に閉鎖。安全な避難経路を確保します。

大規模地震から
暮らしを守る

火災から命を守る

IoTで便利な暮らし

～外出先でもスマホで簡単操作～

スマートスピーカーとの連携で簡単便利なスマートライフ



ワイヤレス集中制御システム「セレコネクト2」
ガレージシャッター・窓シャッター

スマートフォンのアプリでシャッター開閉操作や状態確認ができます。ガレージシャッターや窓シャッターのIoT化で、今まで以上に快適性が向上したスマートライフを実現します。



耐衝撃・高耐風圧で事業と暮らしを守る

気候変動に備える 大型台風対策



高耐風圧仕様
「ウインドブロックシリーズ」

大型台風の発生に伴う竜巻や突風の対策として“風災害”に備える「ウインドブロックシリーズ」は住宅や物流倉庫のほか、災害インフラの拠点となる施設において事業や暮らしの安全を守ります。

関連情報 → P21

メンテナンス・リニューアルで
安心な暮らし

長く暮らせる街づくり



メンテナンス・リニューアル事業
ビルの耐震補強や建材のメンテナンスは安心して暮らせる街づくりに
は欠かせないものです。

避難経路の確保



開放軽減機構付き鋼製ドア
「エア・バランス」

扉単体で火災時の避難経路の安全を確保。圧力差による開閉力を軽減します。

気候変動に備える～「ウインドブロックシリーズ」～

気候変動による大規模災害の多発化・激甚化は、人的・経済的被害も大きく、重要な社会課題となっています。

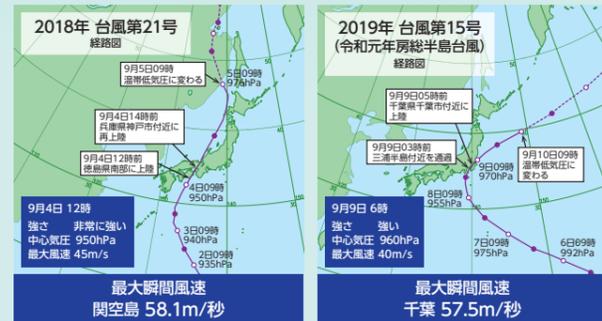
文化シャッターでは、気候変動への適応を優先すべき社会課題と捉え、災害に備え、被害を最小化するための自助の備えを支援する商品開発に注力しています。「ウインドブロックシリーズ」は、重量シャッター、オーバースライディングドア、住宅用窓シャッターで高耐風圧性能を確保した商品をラインアップしています。特に大型物流倉庫の増加により需要が増している重量シャッターでは、基準風速が国内最大となる沖縄全域を想定した業界最高の性能を実現しており、暴風対策の面から企業のBCP対策を支援します。

この特集では、社会的背景を交え、業界最高の耐風圧性能※を誇る「ウインドブロックシリーズ」重量シャッターをご紹介します。

気候変動による影響

地球温暖化と台風

台風の将来変化については気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第6次評価報告書にも記述されており、世界各国各機関におけるシミュレーションの平均的な結果として、2°Cの気温上昇に対して風速の大きさを評価した場合、台風の平均強度が5%増加するとされています。



出典：気象庁「過去の台風資料」をもとに作図

社会的背景 (市場の要求)

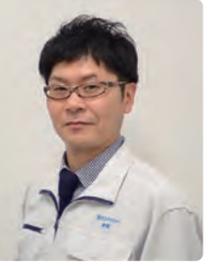
近年、EC事業の拡大や、消費者の購買スタイルの変化に伴い、物流機能強化を目的とした大規模な物流倉庫が増加しています。さらに気候変動に伴う台風の強大化に備えるBCP対策として、耐風圧性能の高い重量シャッターへの要求が高まっています。物流倉庫向けの重量シャッターでは、大開口で高い耐風圧性能を確保した商品が求められています。

倉庫棟数と床面積の推移



出典：国土交通省「建築・住宅関係統計調査」をもとに作図

BXグループの「ウインドブロックシリーズ」は、強風や突風から大切な資産を守ります



商品開発部開発1部 課長 猪俣 聡

近年の気候変動に伴う台風の強大化により、強風による被害も数多く報告されています。このような状況の中、よりお客様に安心して採用していただくために、より高い耐風圧性能のシャッターの実現をめざし、商品開発に取り組みました。

目標とした正圧での4,000Paを実現させるためには、スラットの曲げ試験において、おもりを風圧力に見立て、4,000Paをかけてもガイドレールからスラットが抜け出さないことが絶対条件となります。スラットに風圧力がかかるとガイドレールに耐風フックが引っかかりますが、その時に、ガイドレールと耐風フックには、スラットが抜け出そうとする力が非常に大きくなります。この力に耐えられるようにガイドレールと耐風フックの強度を向上させなくてはなりません。

その課題をクリアするために、アイデア、設計、試作、試験、結果検証のサイクルを繰り返し、試験が失敗したときには、結果検証を徹底的に行い、原因を追究するためにガイドレールからスラットが抜け出す際の動画の解析や、試験後の試験体サンプルを3Dスキャナにより解析し、どのような対策を講じるべきかを導き出し次の設計に活かしました。こうして、「ウインドブロックシリーズ」の重量シャッターが完成しました。

今後も、お客様へさらなる安心・安全を提供できるよう、環境の変化に対応した商品力を強化すると共に、防災の視点でお客様の要望を先読みした新商品の企画・開発を進めていきます。



業界最高※
重量シャッター
耐風圧性能
4,000Paを実現!
(風速81m/秒相当対応)

※2022年8月自社調べ

暴風対策 備えるべき風と風圧力

最も強い風の定義
「猛烈な風」
おおよその瞬間風速：50～60m/秒
平均風速：35～40m/秒

屋外の様子

- 多くの樹木が倒れる
- 電柱や街灯で倒れるものがある

建造物

- 外壁材が広範囲に飛散
- 下地材が露出

最大瞬間風速 開空島 58.1m/秒

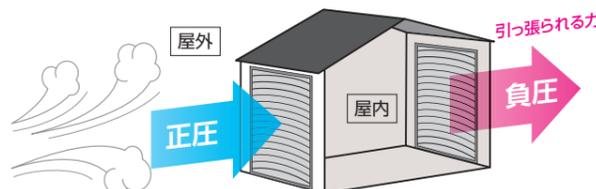
最大瞬間風速 千葉 57.5m/秒

出典・イラスト：気象庁 リーフレット「雨と風(雨と風の階級表)」

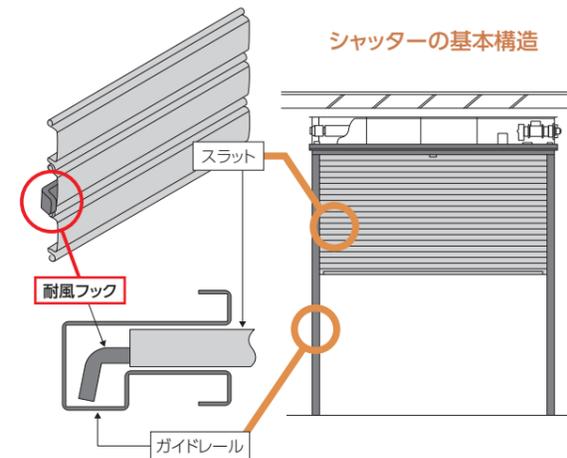
最も風が強い地域
「沖縄県」
要求される風圧力
基準風速国内最大地域(沖縄県全域)
建物の高さ40mの場合
正圧 3,902Pa 負圧 3,066Pa

強風の備えに重要となる「正圧」と「負圧」

シャッターに屋外側から風圧力(正圧)がかかると、建物の反対面や側面にあるシャッターには屋外に向かって引っ張られる風圧力(負圧)がかかります。台風は突風により正圧方向と共に負圧方向にも大きな風圧力がはたらくため、シャッターはその両方向において強度を向上させる必要があります。



大開口で高い耐風圧性能を確保する文化シャッターの技術

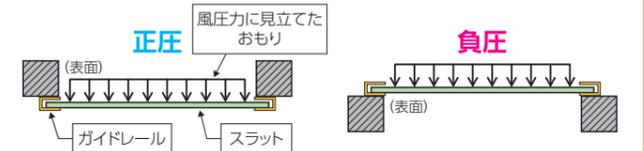


大開口で高い耐風圧性能を確保するには、風を受けてたわんだスラットが、ガイドレールから抜け出さない構造とする必要があります。そのためには「スラットに耐風フックを装備」「耐風フックを引っかけるガイドレール構造」の2点が重要です。当社のウインドブロックシリーズ重量シャッターでは、この2点をさらに強化し、高強度耐風フックの採用によるスラットの強度アップと、補強プレートの採用によるガイドレールの強度アップを実現しました。

屋外から受ける風圧力(正圧)で**4,000Pa**、風下側で発生する屋外に向かって引っ張られる風圧力(負圧)で**3,800Pa**と高い耐風圧性能を確保しています

ライフィン環境防災研究所での徹底した実証試験

JIS A 4705(重量シャッター構成部材)のスラットの曲げ試験



正圧の載荷試験の様子
W=9,500mm
4,000Pa相当

スラットに載荷するおもりを風圧力に見立て、スラットの性能を評価。

当試験所は、ISO/IEC 17025に適合した国際対応(ILAC MRA)の試験認定を取得しています。
認定範囲：
防火・耐火試験 / 気密・水密性試験 / 遮音・断熱性試験